The University of Osaka
Institutional Knowledge Archive

Title	Gallia　55号　会員研究活動報告
Author(s)	
Citation	Gallia. 2016, 55, p. 198-207
Version Type	VoR
URL	https://hdl.handle.net/11094/61931
rights	
Note	

The University of Osaka Institutional Knowledge Archive : OUKA

https://ir.library.osaka-u.ac.jp/

The University of Osaka

会員研究活動報告

（2015 年 1 月 1 日～ 12 月 31 日）

青木　佑介

論文
・*Hiroshima mon amour* における水と忘却（*Gallia*, n° 54, 大阪大学フランス語フランス文学会, pp. 113-122, 3 月）
・Marguerite Duras et la littérature de l'oubli : au travers de la mémoire dans *Hiroshima mon amour*（*EBOK*, 27 号, 神戸大学仏語仏文学研究会, pp. 109-130.）

翻訳
・カトリーヌ・ムリス、「開かれた輪郭」（『日仏マンガの交流―ヒストリー・アダプテーション・クリエーション－』, 思文閣出版, 3 月）

足立　和彦

共著
・『即効！　フランス語作文　自己紹介・メール・レシピ・観光ガイド』（駿河台出版社, 9 月）

書評
・カチュール・マンデス『童貞王』,　中島廣子・辻昌子訳,　国書刊行会（『図書新聞』, 3236 号, 12 月）

安達　孝信

口頭発表
・ユイスマンスの散文詩集『薬味箱』における絵画的描写（第 77 回大阪大学フランス語フランス文学会研究会, 大阪大学, 10 月 3 日）
・ユイスマンスの自然主義小説における理想的画家像の変遷―『ヴァタール姉妹』から『世帯』へ―（日本フランス語フランス文学会関西支部会, 於大手前大学, 12 月 5 日）

阿南　婦美代

共著
・『パショネマン I（三訂版）』（第三書房, 3 月）

井上　直子

論文
・芸術における「現代性」―ボードレール、ランボー、マラルメ、ヴァレリー、ブルトン―（『大阪教育大学紀要』, 第一部門（人文科学）, 第 63 巻第 2 号, pp. 1-24, 2 月）
・ヴァレリーのパスカル批判―『パンセ』の三つの句をめぐって―（『大阪教育大学紀要』, 第一部門（人文科学）, 第 64 巻第 1 号, pp. 11-32, 9 月）

口頭発表
・ヴァレリーとパスカル（第 76 回大阪大学フランス語フランス文学会研究会, 赤木昭三先生追悼シンポジウム「パスカルと後世」, 於大阪大学豊中キャンパス, 3 月 7 日）

井元　秀剛

論文
・間接話法における時制―直示中心の移動か時制の一致か―（言語文化共同研究プロジェクト 2014『時空と認知の言語学 IV』, p. 1-10, 5 月）

岩根　久

論文
・16 世紀フランス詩の音の分析に向けて―N-gram とデンドログラムの利用―（『人文学データのマイニング II（統計数理研究所共同研究リポート 345)』, 統計数理研究所, pp. 11-20, 3 月）
・R を用いたテキストマイニング 5―N-gram による 16 世紀フランス詩の分析―（『電子化言語資料分析研究 2014-2015（言語文化共同研究プロジェクト 2014)』, 大阪大学大学院言語文化研究科, pp. 15-28, 5 月）

口頭発表・講演・学会報告
・第 2 外国語における反転学習の導入実践報告（関西大学シンポジウム「反転学習はディープ・アクティブラーニングを促すか？」安部有紀子氏との共同ポスター発表, 第 3 回反転学習公開研究会, 於関西大学, 2 月 24 日）
・16 世紀フランス詩の音の分析に向けて―N-gram とデンドログラムの利用―（統計数理科学研究所共同研究グループ・統計数理研究所言語系共同研究グループ合同発表会「言語研究と統計」, 於統計数理研究所, 3 月 23 日）
・フランス語初級（文法）クラスで反転授業をやってみた―「反転授業」的な方法は吉か凶か ?―（京都外大 AP 研修会, 於京都外国語大学, 7 月 12 日）

岩村　和泉

口頭発表
・バルザック「青年期の小説」における社会への視線―société の語の使用例をめぐって―（合同バルザック研究会，於明治学院大学，　5 月 30 日）

上江洲　律子

論文
・マルロー『人間の条件』における「身体」イメージの混在（*Gallia*, n°54, pp. 103-112, 3 月）
・身体性が喚起する女性性について―マルロー『人間の条件』を巡って―（『沖縄国際大学外国語研究』第 19 巻第 1 号, pp. 1-17, 9 月）

植村　実江

口頭発表
・スタール夫人の『コリンヌあるいはイタリア』における文学論』（第 4 回関西学生フランス文学研究会, 於大阪大学, 8 月）

太田　晋介

論文
・深淵の構築：フランシス・ポンジュとアトリエにおける記憶という問題系（*Gallia*, n° 54, pp. 93-102）

・Francis Ponge dans et face au spectacle du sommeil（*Études de langue et littérature françaises*, n° 107, pp. 121-136）

口頭発表
・絵画が／を語る技法：ポンジュ芸術エッセーの方法と特色（関西マラルメ研究会, 於神戸大学梅田インテリジェントラボラトリ, 3 月 27 日）

翻訳
・ベルナール・ビュフェ、ルイーズ・ド・ヴェルモラン『植物誌図集 *Herbier*』（抄訳：ベルナール・ビュフェ美術館「画家と版画 拡がるイメージ」展のための館内閲覧資料として配布・公開）

小川　美登里

共著
・*Pascal Quignard. La Littérature à son Orient*（Midori OGAWA, Christian DOUMET, dir., Presses universitaires de Vincennes, coll. «L'imaginaire du texte», 190p.）

論文
・Entre la catastrophe et la survivance : *Hiroshima mon amour*, 55 ans après（『ステラ』, 第 33 号, 九州大学フランス語フランス文学研究会, pp. 303-314）
・Ecrire sur le corps mort du monde ―Sur *Hiroshima mon amour*―（『立教大学フランス文学』, 第 44 号, 立教大学フランス語フランス文学研究室, pp. 35-48）
・L'ode de Pascal Quignard（*Pascal Quignard, La Littérature à son Orient*, Presses universitaires de Vincennes, coll. «L'imaginaire du texte»）
・L'imaginaire d'un Japon secret（*Pascal Quignard. Translations et métamorphoses*, Hermann, pp. 133-152）
・Le chant d'adieu（*Mireille Calle-Gruber, L'Amour du monde a l'abri du monde dans la littérature,* Hermann, pp. 53-62）

口頭発表
・Sur la question des genres dans l'œuvre de Pascal Quignard（Séminaire de l'équipe «littérature, philosophie, arts», 於パリ第八大学, 3 月 24 日）
・Le Japon de Pascal Quignard（Séminaire de l'équipe «littérature, philosophie, arts», 於パリ高等教育学校, 4 月 3 日）
・プルーストと 20 世紀、たとえば女性作家や思想家たち（日本フランス語フランス文学会ワークショップ, 於明治学院大学, 5 月 30 日）
・Recits de la traduction ; traduire chez Pascal Quignard（Colloque international «Recherche et traduction», 於人民大学（中国）, 10 月 31 日）

書評
・鏡のなかの女たち（ポール・コンスタン, 『打ち明け話』（人文書院）書評,『図書新聞』, 第 3201 号, 3 月）

柏木　加代子

翻訳・解説
・『フロベール 心の城』（大阪大学出版会, 3 月, p. 303）

共著
・土田麦僊とヴェトイユの少女（『フランスと日本 遠くて近い二つの国』, 早美出版社, pp. 206-219, 3 月）

口頭発表
・日本画家土田麦僊に見るフランス絵画の受容（於天津外語大学（中国）, 10 月 20 日）
・トロンコワ・コレクションの芝居絵を読む（日仏文化交流シンポジウム：「日仏文学・美術の交流―トロンコワ・コレクションとその周辺 その 2―」, 於大手前大学, 11 月 22 日）

柏木　隆雄

共著
・太宰治のフランソワ・ヴィヨン体験―『乞食学生』を貫くフランソワ・ヴィヨン『大遺言書』詩句借用（『フランスと日本 遠くて近い二つの国』, 早美出版社, pp. 99-123, 3 月）

共編著
・まえがき（『日仏マンガの交流―ヒストリー・アダプテーション・クリエーション―』, 石毛弓, 小林宣之共編, 大手前大学文化交流研究叢書 11, 思文閣出版, pp. i-v, 3 月）
・フランス漫画の原点―グランヴィル、ガヴァルニ, ドーミエ―（『日仏マンガの交流―ヒストリー・アダプテーション・クリエーション―』, 石毛弓, 小林宣之共編, 大手前大学文化交流研究叢書 11, 思文閣出版, pp. 106-133, 3 月）

論文
・菊池寛とバルザック―『真珠夫人』をめぐって―（*Gallia*, n° 54, 大阪大学フランス語フランス文学会, pp. 33-42, 3 月）
・菊池寛の文学―『真珠夫人』をめぐって―（「大手前比較文化学会会報」第 16 号, pp. 9-10, 3 月）
・小説家小林一三の位置（『文学』第 16 巻・第 2 号, 岩波書店, pp. 282-304, 3 月）
・三好達治の詩的空間―フランス詩との関わりをめぐって―（大手前大学論集, 第 15 号, pp. 43-65, 3 月）

書評
・赤木昭三著『フランス近代の反宗教思想』書評（『信濃毎日新聞』1994. 3. 13 よりの再録, *Gallia*, n° 54, 大阪大学フランス語フランス文学会, p. 29, 3 月）

エセー・座談会・冊子
・赤木昭三先生の思い出（*Gallia*, n° 54, 大阪大学フランス語フランス文学会, pp. 125-126, 3 月）
・2014 年度の大手前大学院（「大手前比較文化学会会報」第 16 号,　pp. 1-2, 3 月）
・丹羽保次郎顕彰碑 碑文（三重同工会, 三重県立松阪工業高校 赤壁資料館前, 6 月 7 日）
・新しい仲間をお迎えして（*AMAMUS OTEMAE*, 4 号, 大手前大学, p. 1, 6 月 17 日）
・理事長就任にあたって（『赤壁』第 89 号, 三重同工会, pp. 2-3, 9 月 10 日）
・「やそしま」第 9 号（（公財）関西・大阪 21 世紀協会 上方文化芸能運営委員会, pp. 104-165, 10 月 31 日）

・大手前大学の新しい風（*Otemae Winds*, No.42, 大手前学園, p. 6, 11 月 1 日）

・「どうこういせ」に寄せて（『どうこういせ』第 32 号, 三重同工会伊勢支部, pp.2-3, 12 月 1 日）

口頭発表・講演

・小説家小林一三（「武庫川倶楽部」講演, 於宝塚ホテル, 3 月 11 日）

・小説『真珠夫人』とフランス小説（三重日仏協会，放送大学三重学習センター共催, 於三重県総合文化センター文化会館, 4 月 12 日）

・グローカル現象としての三好達治の詩業（成城大学「グローカル文化研究所」講演, 於成城大学, 10 月 9 日）

・三好達治：叙情詩の世界（東北大学秦皇島分校講演，於中国東北大学秦皇島分校, 10 月 19 日）

・大正・昭和の文壇の王―菊池寛の文学（天津外国語大講演，於天津外国語大学, 10 月 20 日）

・フェリシアン・シャレ―『絵入り日本』とエマニュエル・トロンコワ（シンポジウム「日仏文学・美術の交流―トロンコワ・コレクションとその周辺―その 2」, 於大手前大学 セル・フォーラム, 11 月 22 日）

・私の松工時代―将来をどう選ぶか―（松阪工業高校デリヴァリー授業, 三重同工会主催, 於三重県立松阪工業高校, 12 月 14 日）

粕谷　祐己

口頭発表

・英語と上手につきあおう！（関西フランス語教育研究会（Rencontres pédagogiques du Kansaï), 於アンスティチュ・フランセ関西―大阪, 3 月 20 日）

加藤　靖恵

論文

・Les goûter sur la falaise : montage de l'histoire des jeunes filles pendant les années 1914-1918（*Bulletin d'informations proustiennes,* n° 45, pp. 61-74）

・Elstir et Emile Mâle : le discours sur l'église de Balbec dans le Cahier 34（*Proust et les Moyen-âges,* sous la direction de Sophie Duval et Miren Lacassagne, Hermann, pp. 197-218）

・La Vierge dorée d'Amiens et sa haie d'aubépines（*Bulletin Marcel Proust,* n° 65, 2015, pp. 51-64）

口頭発表

・プルーストとラスキン：アミアンとリジューの植物の彫刻（関西プルースト研究会, 於京都大学, 12 月 19 日）

金崎　春幸

論文

・フローベールと仏教（大阪大学言語文化研究科『言語文化研究』41 号, 3 月）

エセー

・フローベール『聖ジュリアン』と鹿（『流域』77 号, 10 月）

川上　紘史

論文
・パスカルにおける《盲目》について（関西フランス語フランス文学, 第 21 号, pp. 51-62, 3 月）

口頭発表
・パスカルとアルノーの洗礼観比較―習慣と教育を中心に―（第 4 回関西学生フランス文学研究会, 於大阪大学, 8 月）

北村　卓

編著
・『フランスを読み解く鍵　第 1 巻（改訂版）』（アシェット・ジャポン, 78p., 4 月）
・『表象と文化XII』（大阪大学言語文化研究科「言語文化共同プロジェクト 2014」, 102p., 5 月）

共著
・宝塚歌劇におけるフランス的なるものをめぐって（『フランスと日本―遠くて近い二つの国』, CAF10 周年記念論集編集委員会編, 早美出版社, pp. 159-172, 3 月）

論文
・日本におけるボードレール受容のパースペクティブ（大阪大学言語文化研究科「言語文化共同プロジェクト 2014」『表象と文化XII』, pp.55-64, 5 月）

口頭発表
・日本におけるボードレール受容のパースペクティブ（日本比較文学会関西支部研究例会, 於関西学院大学梅田キャンパス, 4 月 18 日）

講演
・グローカル現象としてのボードレール受容―文学からマンガまで―（於成城大学グローカル研究センター, 7 月 10 日）
・Perspective on Baudelaire's Reception in Japan from the Meiji Era to the Present,（International Symposium «Cultural Modernism IV: Baudelaire in Japan», Vanderbilt University, Nashville, USA, 11 月 5 日）

小林　宣之

論文
・中村真一郎に甦るネルヴァル　女優の問題（四）（『中村真一郎手帖 10』, 水声社, 4 月）

坂巻　康司

口頭発表
・萩原朔太郎とボードレール―感覚と声の詩学（シンポジウム『近代日本におけるフランス象徴主義―受容・模倣・創造―』, 学習院大学, 3 月 15 日）
・マラルメと雑誌メディア―『ワーグナー評論』を中心に（日本フランス語フランス文学会東北支部大会, シンポジウム「世紀末の文芸誌と作家たち」, 石巻専修大学, 11 月 7 日）

書評
・哲学者が語る象徴主義詩人―ランシエールのマラルメ論（『ヨーロッパ研究』第 10 号, 東北大学大学院国際文化研究科ヨーロッパ文化論講座, pp. 313-315, 3 月）

報告
・シュ・シャオメイ『永遠のピアノ』、醸成する「生への希望」―常に自省しつづける稀有な音楽家の自叙伝―（『週刊読書人』, p. 8, 7 月 24 日号）
・ワークショップ報告：哲学者が語る複数のマラルメ像（*Cahier*, 15 号, 日本フランス語フランス文学会, pp.26-27, 3 月）

阪村　圭英子

共著
・睡蓮の花をめぐるジャポニスム（『フランスと日本 遠くて近い二つの国』, 早美出版社, 3 月）

高岡　尚子

論文
・老いゆく女の尊厳―母を看取る娘（作家）たちのことば――（奈良女子大学文学部欧米言語文化研究会『欧米言語文化研究』第 2 号）

口頭発表
・Solange Clésinger-Sand : écrivaine ou fille d'écrivaine ?（第 20 回国際ジョルジュ・サンド学会, 於ヴェローナ大学／イタリア, 6 月 30 日）
・母を看取る女性作家たちのことば―ジョルジュの娘ソランジュを含めて―（大阪大学フランス語フランス文学会第 77 回研究会, 於大阪大学文学部, 10 月 3 日）

髙橋　愛

論文
・ゾラ『ルルド』、『パリ』とオーギュスト・パリの共和国像―屹立するマリア、生の表現としてのマリアンヌ―（『社会志林』, 第 62 巻第 1 号, pp. 141-152, 7 月）

武田　裕紀

論文
・ Les objets les plus simples dans la demonstration de l'optique（『追手門学院大学基盤教育論集』第 2 号, pp. 17-24）

共訳・責任編集
・『デカルト全書簡集 第三巻』（知泉書館）

翻訳
・アンドレ・シャラック「西洋近代合理性の出現におけるハルモニアの位置」（『追手門学院大学基盤教育論集』第 2 号, pp. 45-58）

口頭発表
・『ポール＝ロワイヤル論理学』とデカルト―「定義」を巡って―（「＜表象＞のパスカル――パスカル学への新たな寄与の試み」第 1 回研究会, 大阪大学豊中キャンパス, 7 月 25 日）

竹鼻　智子

口頭発表
・ヴィヨンとゴーチエ（第 4 回関西学生フランス文学研究会, 於大阪大学, 8 月）

立川　信子

論文
・ジッドに対するスタンダールの「影響」（愛媛大学法文学部論集人文学科編 n° 39, pp. 1-24, 9 月）

アニエス・ディソン

論文
・*Ryoko Sekiguchi : spéculations fantômes*（Revue *Sites*, Contemporary French & Francophone Studies, Routledge USA, vol. 20, octobre）
・*Daniel Humair : Formes, trait, espace*（*Livre d'artiste, Centre d'Art Contemporain, Atelier de l'imprimé, Châtellerault*）

寺本　成彦

論文
・モーパッサン「野あそび」からジャン・ルノワール『ピクニック』への道程（『ヨーロッパ研究』n° 10, 東北大学大学院国際文化研究科ヨーロッパ文化論講座, 3 月）

口頭発表
・ロートレアモンとパスカル（第 76 回大阪大学フランス語フランス文学会研究会, 赤木昭三先生追悼シンポジウム「パスカルと後世」, 於大阪大学豊中キャンパス, 3 月 7 日）
・寺山修司におけるロートレアモン（シンポジウム「近代日本におけるフランス象徴主義―受容・模倣・創造―」, 於学習院大学, 3 月 15 日）

永瀬　春男

口頭発表
・パスカルにおける科学、論争、レトリック―計算機体験を中心に（「＜表象＞のパスカル――パスカル学への新たな寄与の試み」第 2 回研究会, 岡山大学言語教育センター, 10 月 10 日）

長谷川　富子

共編著
・鹿鳴館の舞踏会―ピエール・ロティと芥川龍之介―（『フランスと日本 遠くて近い二つの国』, 早美出版社, 3 月）

濱田　明

論文
・Lafcadio Hearn et la littérature française（*Lafcadio Hearn Studies*, Vol.2, The Life and Times of Hearn, Society for Lafcadio Hearn Studies, Kumamoto University, pp. 31-34, 3 月）

口頭発表
・ハーンとフランス文学（熊本八雲会「ハーン作品トークの会」, 小泉八雲熊本旧居, 7 月 26 日）
・「柔術」にみる東洋と西洋（熊本大学学術資料調査研究推進室「ラフカディオ・ハーン「東の国から」発刊 120 年記念シンポジウム」, 熊本大学, 11 月 19 日）

・フランスの思想と病い―モンテーニュは病気とどう付き合ったか―（熊本大学公開講座「世界の宗教と思想から見る病いと癒し」，熊本大学, 12 月 12 日）

林　千宏

論文
・印刷の時代における『夢』―レミ・ベロー「牧歌」（一五六五）を中心に―（『夢見る日本文化のパラダイム』荒木浩編，法藏館，pp. 470-501）

口頭発表
・デュ・ベレー『ローマの古跡』『夢』における隠蔽と解読（日本フランス語フランス文学会秋季大会ワークショップ「フランス・ルネサンス文学における隠蔽と解読」, 京都大学, 11 月 1 日）

書評
・『フランス・ルネサンス文学集 1 学問と信仰と』（『ふらんす』, 白水社, 6 月号, p. 72）

春木　仁孝

論文
・tout の強意用法について（『フランス語学の最前線』3，ひつじ書房, pp. 61-105, 5 月）
・tout un N ―数量表現から強意表現へ―（言語文化共同プロジェクト 2014『時空と認知の言語学 IV』, pp. 31-40, 5 月）

藤田　義孝

単著
・サン＝テグジュペリにおける「語り」の探求―『南方郵便機』から『星の王子さま』へ―（朝日出版社, 12 月）

松川　みゆう

論文
・ルソーとサン＝ピエール『永久平和論』（関西フランス語フランス文学, 第 21 号, pp. 123-134, 3 月）

口頭発表
・『社会契約論』における人体の比喩（日本フランス語フランス文学会関西支部会, 於大手前大学, 12 月 5 日）

森　康晃

口頭発表
・マルセル・プルースト『失われた時を求めて』における「七重奏曲」研究―フィクションによる音楽表象―（大阪大学三谷研爾教授授業「コンフリクトの人文学」, 於大阪大学, 5 月 29 日）
・『失われた時を求めて』における「七重奏曲」の機能―なぜ les cuivres でなければならないのか―（関西プルースト研究会，於京都大学, 9 月 26 日）
・マルセル・プルースト『失われた時を求めて』における音楽と啓示―ヴァントゥイユの「七重奏曲」研究―（第 75 回大阪大学フランス語フランス文学研究会, 於大阪大学, 10 月 3 日）

山崎　恭宏

口頭発表
・バルザックにおける E. T. A. ホフマン『ドン・ジュアンの上演』の受容―『あら皮』を中心に（日本フランス語フランス文学会秋季大会, 於京都大学, 10 月 31 日）
・オペラ的空間と牢獄（関西バルザック研究会, 於大手前大学, 12 月 23 日）

山上　浩嗣

翻訳
・ジャンニ・パガニーニ「モンテーニュと近代懐疑主義」（『思想』1098 号（2015 年 10 月号）, 岩波書店, pp. 7-24, 9 月）

共訳
・『デカルト全書簡集』第 3 巻、武田裕紀・香川知晶・安西なつめ・小沢明也・曽我千亜紀・野々村梓・東慎一郎・三浦伸夫・山上浩嗣・Claire Fauvergue 訳（山上担当：pp. 5-8, 29-32, 147-148, 174-175, 219-222, 225-228, 249-252, 272-275, 278-280, 285-296, 315-317, 321-329）（知泉書館, 2 月）

口頭発表
・ヴォルテールのパスカル批判（第 76 回大阪大学フランス語フランス文学会研究会, 赤木昭三先生追悼シンポジウム「パスカルと後世」, 大阪大学豊中キャンパス, 3 月 7 日）
・パスカルと動物の魂――動物機械論と『パンセ』（「＜表象＞のパスカル――パスカル学への新たな寄与の試み」第 1 回研究会, 大阪大学豊中キャンパス, 7 月 25 日）
・モンテーニュ、デカルトの動物論とパスカル（京都大学人文科学研究所「環世界の人文学――生きもの・なりわい・わざ」研究班（大浦康介班長）例会, 京都大学人文科学研究所, 10 月 5 日）

エセー
・平野隆文さんの思い出（『この聖なる友情――平野隆文先生追悼文集』Association Takarabelais（takarabelais03022015@gmail.com）, 全 2 巻：第 2 巻, 323-325 頁, 8 月）

山本　健二

論文
・La poétique de l'*Album zutique* et Verlaine zutiste―Autour du « Propos du Cercle » et du « Pantoum négligé » ―（*Gallia*, n° 54, pp. 63-72, 3 月）

口頭発表
・初期ヴェルレーヌにおける『悪の華』の受容と実践（日本フランス語フランス文学会全国春季大会, 明治学院大学, 5 月 30 日）